

新潟県立高校で「明るい未来へTRY！」を活用した公民科 特別授業を実施しました！

～社会保険と民間保険の違いとリスクの備えについて学ぶ～

日本損害保険協会 関東支部 新潟損保会(会長：水越 靖・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 新潟支店 支店長)では、10月20日に新潟県立吉田高等学校で、佐藤 浩 校長(新潟県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会副部長)が、公民科の特別授業「損害保険について学習しよう」を実施しました。

当日は高校3年生35名を対象に、当協会作成の高校生向け副教材「明るい未来へTRY!」を使用して、社会保険と民間保険の違いとリスクの備えについて学ぶ50分間の授業を行いました。

始めに佐藤校長から、損害保険に関する事前のアンケート結果を生徒に説明のうえ、「交通事故に備える損害保険に対する関心は高く、将来入ろうと思っている人は多かった。一方で、入らない、関心がないという人は事故への備えは大丈夫でしょうか」と問題提起がありました。

次に同校長から、「自助・共助・公助の適切な組み合わせを考えよう」と題して、公助(生活保護など)、共助(社会保険)、自助(貯蓄や民間保険)の説明の後、「社会保険制度の課題は少子高齢化である。このため、社会保障だけではなく、人生で遭遇する貯蓄では賄えないリスクに対して民間保険(損害保険・生命保険)で備える必要がある。」と説明がありました。

引き続き、動画「友だちとドライブに行きたい!」を観た後、自賠責保険と任意自動車保険の概要および自動車の保険以外の損害保険についても説明がありました。

この後、同校長から学生に対して、「先日、町内会の旅行で大人15名、子ども6人計21人、1日だけ傷害保険(死亡・後遺障害：1千万円、入院：5千円、通院：3千円)に加入した事例の紹介などがあり、「事故は頻繁に起こらないかも知れないが、『保険』に加入することで、必要な『安心』を買うことができる」との説明がありました。

授業実施後に生徒に行ったアンケートは、35名全員が理解できた(「大変理解できた」、「ある程度理解できた」という内容でした。詳細は以下のとおりです(下記参照)。

本授業を通じて、生徒には長い人生の中では、事故や災害など予測できないリスクが隠れており、将来のリスクに備える方法として損害保険の活用が必要であることを認識していただき、リスク教育を着実に推進することができました。

当支部では、このような授業実践、講師派遣等を通じて、今後も損害保険リテラシーの向上に努めてまいります。



生徒に説明する佐藤校長

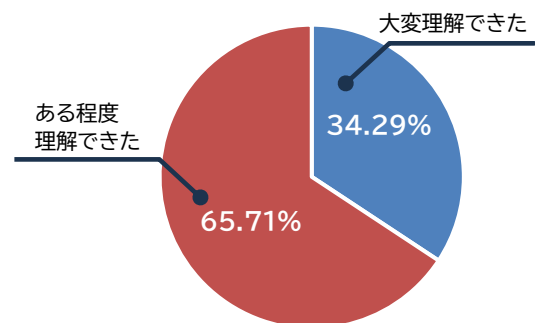


動画「友だちとドライブに行きたい！」を観る生徒

〈授業実施後のアンケート〉 (抜粋)

1. 授業を受けた感想

- | | |
|---------------|-------------|
| ① 大変理解できた | 12 (34.29%) |
| ② ある程度理解できた | 23 (65.71%) |
| ③ あまり理解できなかった | 0 |
| ④ 全く理解できなかった | 0 |
| ⑤ その他 | 0 |



授業実施後のアンケート

2. 今回学んだこと

- ・ 自賠償保険と任意自動車保険との違い。
- ・ 貯蓄と保険のメリットとデメリット。
- ・ 自動車事故を起こして人にケガをさせると治療費だけでなく、その人が稼げるはずだったお金も払わなければいけないことがわかった
- ・ 自賠償保険では相手のケガしか対象にならないので、任意の自動車保険に加入しようと思った。
- ・ 保険は将来安心して暮らすためには必要だと思った。

3. 損害保険は役に立ちますか？

- ・ 社会保障に頼れないところを損害保険は補償してくれる。
- ・ 人生の経済不安を排除するのに役立つ。人生に余裕を作れる。
- ・ 自分が事故を起こしてしまった時など役に立つ。
- ・ 盗難や家族に不幸があった時など役に立つ。
- ・ 将来自分が車や家を買ったときにリスクを減らすためにも保険は必要。